

花 粉 症

—季節とともに起こるクシャミと涙—

富山医科薬科大学医学部公衆衛生学 寺西 秀豊

【花粉症の歴史は日本ではまだ浅い】

最近、スギ花粉症とかブタクサ花粉症という言葉が一般によく耳にするようになってきました。早春、スギの開花に伴い、くしゃみの連発、鼻みずが止まらない、眼がチカチカして涙が出るなどの訴えで病院にかかる人々の数も増加してきています。

こうした花粉症が日本に流行してきたのは、そんなに古いことではありません。1960年に日本で最初のブタクサ花粉症の存在が確認されるまでは、日本人には花粉症は存在しないと医学界でも考えられていたのです。それが30年後の今日、人口の6～9%もの人々がスギ花粉症にかかっていると言われるようになりました。花粉症をおこすのはスギ花粉だけではないので、他の花粉症を含めると1割以上の人々が花粉症ということになりますが正確な数字はわかっていません。

それでは何故、今日そんなに花粉症が多く発症するようになったのでしょうか。主な原因としては次のようなことが考えられています。

【少なくなったブタクサ花粉症、 増え続けるスギ花粉症】

例えば、ブタクサ花粉症について考えると、ブタクサという植物は北米から明治以後に日本に帰化したものです。ブタクサが日本に入ってきたら、ブタクサ花粉症は無いわけです。このように、日本古来の植生の中に、

花粉症を引き起こすような抗原性の強い外来植物がどんどん入って来たということが、大きな原因の一つと考えられます。ブタクサのほかにも、晩秋に黄色の大きな花を咲かせるセイタカアワダチソウ、イネ科のカモガヤ、オオアワガエリ、シナダレスズメガヤなどが花粉症をおこす外来種としてあげられています。

しかし、現在の花粉症の増加は、帰化植物のせいだと言いきるわけにはいきません。スギによる花粉症があるからです。スギは日本固有の植物で、今生えてきたわけではありません。

しかし、実際には帰化植物の場合と似たような事実があるのです。スギは樹木ですので芽を出したらその年に花をつけるようなことはありません。戦後、日本全国で植林を行いました。30年生以上になって成熟し、花粉を飛散させるようになったのです。その上、スギ材は外国の木材の自由化に伴い、伐採されることが少なくなっています。そのため、今日スギ花粉は増加し続けているのです。

【原因は花粉以外にもある】

その他、花粉症増加の背景として考えられていることとして、住居環境や食生活の変化、大気汚染の問題などが上げられます。車社会の到来とともに花粉症も増加しているようです。最近の研究によると、ディーゼルエンジンから出る排出微粒子 (DEP) がヒトの体内

で免疫学的に作用して、IgE抗体と呼ばれるアレルギーを起こす物質の産生を増加させていることがわかってきました。

このように考えると、花粉症とは人間社会の大きな変化、自然に対する働きかけの変化などが複雑にかちみあって発生していることがわかるでしょう。もちろん、農村や農業労働の大きな変化も重要な役割をはたしているものと考えられます。

私達は昨年、富山県の医師、研究者等の中

心に、「花粉症研究会」という花粉症に関する情報交換、研究成果の啓蒙、普及などを目的とする研究会を作りました。富山県農村医学研究会にもひとかたならぬ御支援をいただきました。花粉症を考える場合、患者さんがかかえているアレルギーの原因、植物という身近な自然に目をむけて研究していく中で、真に予防や治療に役立つ知識が得られるものと考えているのです。今後も会員の皆様の御支援と御協力をお願い致します。



写真1 花粉飛散直前のスギ雄花



写真2 花粉症研究会の研究成果を名古屋市で開かれた第38回日本農村医学会に発表

